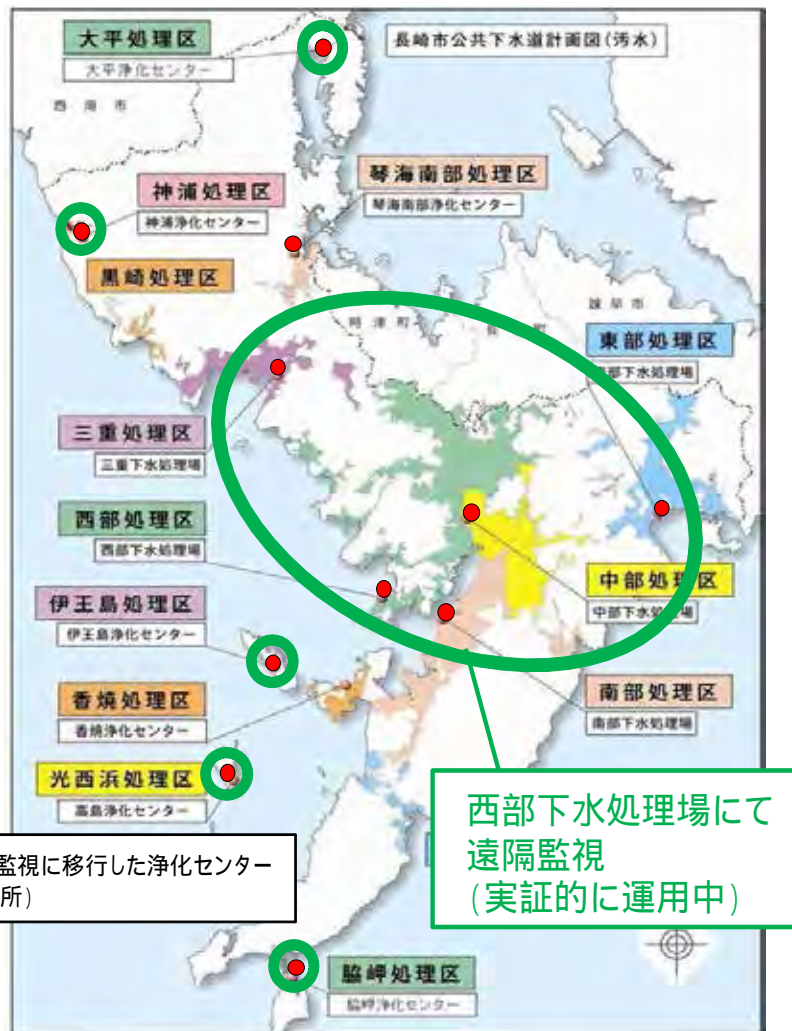


ICT導入の成功事例検証（長崎市の事例）


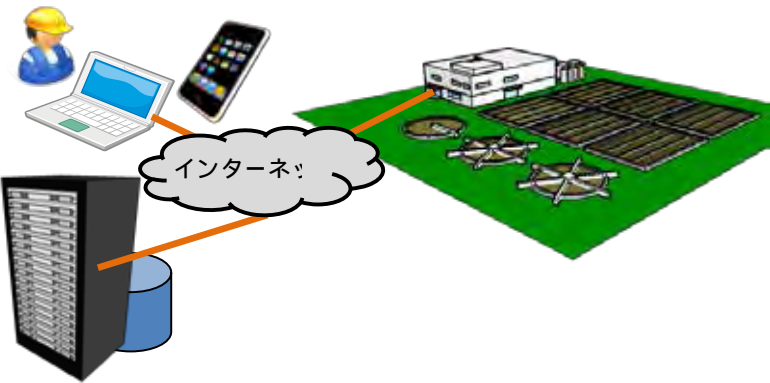
○ ICTの導入（Web広域監視）に成功している長崎市において、ICT導入効果の事後検証を行った結果、Web広域監視を導入することにより、維持管理費の約4%（年間1.2億円）のコスト削減の効果があることが示された



< 長崎市の事例 >

	導入前	導入後
大規模処理場	全処理場 (5 処理場) ・24時間常駐監視 (2名 × 3交代)	集中監視処理場 (1 処理場) ・24時間常駐監視 (昼間2名/夜間3名/3名の3交代)
		夜間無人処理場 (4 処理場) ・昼間8時間管理 (昼間2名、夜間無人)
		インタ

長崎市の事例

	導入前	導入後
監視体制	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模処理場(5箇所)の監視室 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで接続されたPC・モバイル機器で監視可能 (処理場・庁舎のいずれでも監視可能) 
監視場所	<ul style="list-style-type: none"> ・各処理場に人員を配置(24時間監視) 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間監視は、1箇所に人員を集約 ・昼間監視は、従来どおり各処理場に人員配置
費用比較 (工事費+人件費)	<p>490百万円/年</p>	<p>365百万円/年 (差額1.2億円/年)</p>
施設管理の適正化 (マンホールポンプ)	<p>異常の場合、アラーム通報のみ 故障内容は現場確認が必要</p>	<p>リアルタイムに故障内容が把握でき、即時に重要度に応じた対応が可能</p>
人材育成の効果	<p>処理場等の施設で現場担当しか状況を把握できない</p>	<p>誰でも、いつでも、処理場等の施設の状況把握が可能</p>

ICT導入に関するボトルネック

- 成功事例検証(プロセスラーニング)を行うなかで、最新のICT導入を迅速に進めていくには、知識・情報不足、人材不足や導入判断が困難などの**ボトルネックが存在**することを確認した。
- **ボトルネックを解決**し、ICTを普及させるためには、「**情報配信**」「**技術開発**」「**人材育成**」「**事後調査**」「**ユーザー評価**」「**技術評価**」「**検討支援**」などの取り組みが有効であると考えられる

ICT 導入のボトルネック		ICT 導入促進のための取り組み	
(1) 検討着手段階 ↓	知識・情報不足 a) ニーズに対し、その解決に ICT を用いるという着想に至らない b) 技術革新が速く、最新の技術情報の入手が難しい	最新 ICT 情報の一元的管理と自治体への提供	情報配信
		ニーズとシーズのマッチング情報の自治体への配信	
		各 ICT に関連する情報を、自治体から容易に検索できる仕組みの確立	
(2) 検討実施段階 ↓	人材不足 c) 新技術 (ICT) を理解し導入を進める主導的人材がない 導入判断が困難 d) 新技術 (ICT) 採用の経験に乏しく、導入のための手続きや留意事項が想定できない e) 導入したい ICT があっても、現状の業務プロセスと馴染まない f) 導入判断を下すための技術的知見に乏しい	技術改良および新たな技術開発の継続的な推進	技術開発
		ICT およびその導入手法に通じたい自治体職員の育成	人材育成
		過去の導入事例や業務プロセス変更事例等、実績情報の自治体への発信	事後調査
		ICT を活用しているユーザーの評価の収集と発信	ユーザー評価
		中立的な立場からの技術提案や、類似技術間の比較資料の提供	技術評価
		導入効果判断の根拠資料の提供	検討支援

下水道ICT普及促進プラットフォーム (仮称) 構想

- ICT導入の**ボトルネック解決**を実現していくための仕組みとして、**ICT普及促進プラットフォーム(仮称)機能の構築が有効**であると考えられる。
- このプラットフォームは、ICT企業からの**最新技術**や、先進自治体の**導入事例**を**収集・評価**等するとともに**広く公開**することで、**ICT導入検討の意思決定の円滑化・効率化**を図る仕組みとする。

